

小学校の時の楽しみは父親との将棋。きっかけは「将棋ができたから、いろいろな人と交流ができて将来役に立つ」という父親の考えでした。父親が仕事から帰ってくると待ち遠しく、対戦し連戦連敗…。悔しいので、就寝まで毎日のように何度も何度も父親に挑みました。



「絶対に勝ちたい」。その思いで、将棋の本を読み、研究し、友

### ③ 将棋、料理も学び



大阪成蹊大准教授 福岡亮治

達と練習し、同級生には絶対に負けないほど強くなりましたが、父親に一度も勝った記憶はありません。しかし、父親の狙い通り、私は将棋を通して、たくさん友達と交流しました。そして、吉本新喜劇では、舞台の合間の時間に、桑原和男師匠をはじめとした新喜劇の先輩の方々と将棋をする機会が多々あり、そこで人間関係を築くきっかけとなりました。

メならば再検討、良いと思っても時間のある限り、もっと良い方法はないのかという思考をします。この思考は人生設計や何かを判断する局面に出合った時に、役に立つスキルにつながります。これは、父親の「交流のための将棋」という意図以上に私が将棋という遊びの中から学んだものです。

これもエデュテイメントの一種。知識を手に入れるだけが勉強ではなく、遊びの中で人生に役立つスキルや考え方を学んだりすることでもできます。そう考えると「エデュテイメントは何でもOKなのでは？」となりますが、その通りです。何かを学ぶという狙いがあれば全ての趣味、遊びがエデュテイメントの機会となります。



料理でも学びはあります。現在私は高3の娘と「ふわとろ半熟オムライス」に挑戦中。失敗の度に「これでよかったのかな?」「次はこうしよう」と常に頭によぎります。さらに、娘とも「火の強さが違う」「フライパンのサイズを変えよう」「油をもっと入れよう」など、しっかりと最良の方法を模索する議論をしています。

このように、単なる料理や将棋にも、学びがたくさん詰まっています。本来の目的以上にたくさん学ぶエデュテイメントの機会が生まれます。極論を言えば、行動すれば、何かしらの学びにつながります。時間に余裕のある範囲でよい子どもといっぱい遊んでいっばい関わってください。こちらの意図以上に子どもたちは何かを学んでくれるはずです。

## 失敗→修正→挑戦 考え方の訓練

また、将棋は一手を打つ際に、その後どうなるのかを予想し、ダメなら再検討、良いと思っても時間のある限り、もっと良い方法はないのかという思考をします。この思考は人生設計や何かを判断する局面に出合った時に、役に立つスキルにつながります。これは、父親の「交流のための将棋」という意図以上に私が将棋という遊びの中から学んだものです。

料理でも学びはあります。現在私は高3の娘と「ふわとろ半熟オムライス」に挑戦中。失敗の度に「これでよかったのかな?」「次はこうしよう」と常に頭によぎります。さらに、娘とも「火の強さが違う」「フライパンのサイズを変えよう」「油をもっと入れよう」など、しっかりと最良の方法を模索する議論をしています。

毎月第1土曜掲載です